



し しん かい
志真会 会報 2025
 8月発行

滑川市議会議員

連日続く記録的な暑さの中、皆様の体調はいかがででしょうか？適切な水分補給、エアコンの活用、そして何よりも無理のない活動で、まだまだ続く暑さを乗り切ってください。実はこの猛暑の中、市内の大切な施設、特に未来を担う子どもたちが学ぶ学校や乳幼児施設で、空調の故障が相次いでいます。これは、まさに緊急事態です。早急な修理や入替が必要ですが、6月定例会の質疑ではエアコンの工事費および工事の着工の工期等に問題がありました。私たちは、「本当に適切なものを、適正な価格で導入する」という強い信念のもと、徹底的に目を光らせていきます。志真会は、市民の皆様の安心安全のため、状況を迅速に精査し、新たな提案を積極的に進めることをお約束します。これからも会派一丸となり、滑川市の発展のため粉骨砕身活動してまいります。引き続き、私たちの活動へのご理解を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

先日の6月定例議会では、以下の補正予算などが議案通り全会一致で可決されました。

一般会計 4億28万円（補正後予算額 151億9,330万円）

話題になったものや予算額が多きものは以下の通りです。

①**コンピュータ管理運営費**（1億218万円 うち国の補助 1,628万円）

当初予算において、国の交付金を活用しながら住民記録や税務、福祉など20の標準化対象業務システムは、地方公共団体情報システムの標準化に関する法律に基づいて、令和8年1月から国が定める標準準拠システムへ移行します。それまでに稼働できるように仮移行作業等進めているところではあります。しかし、20の標準化対象システムから外れた上下水道システムや住宅管理システム、標準準拠システムを連動する各種システムにおいても令和8年1月から新たな環境での運用、連携の再構築が必要なための予算です。これまで通りの運用でも十分に運用できているだけにこの予算を概ね市が負担しなければいけないことに不満を感じます。

②**保育所等施設整備補助金**（1,181万円 うち国の補助 788万円）

市内の私立保育園、認定こども園2園に対しての施設改修補助金です。国の交付金事業を活用して、空調設備や床の修繕を行います。

③**深層水分水施設整備充実費**（1億8,590万円 うち国の補助9,020万円）

アクアポケットの高濃縮水を製造する設備の老朽化のため更新を行います。現在のRO（逆浸透）膜方式より、さらに高濃度な高濃縮水が製造できる新しいBC（塩水濃縮）膜方式の製造装置導入の予算。深層水のまち滑川がさらに広がることを願っています。

④**中滑川複合施設管理運営費**（370万円 全て市の財源）

消防署、滑川市、お互いの確認、認識不足から3階の収容人数が当初よりも増加となりました。その結果、消防法の基準により避難器具の設置個数の不足が確認され、3階ホワイエ部分の窓を改修し避難器具を新たに追加することとなりました。利用者の安全確保のため必要なことではありますが、当初より指摘があれば、費用は抑えられたはずでした。

以上簡単ではございますが、令和7年6月度の補正予算の1部内容をお伝えさせていただきました。まだまだありますが、その他は、会派各議員の質問内容にも盛り込まれております。また、滑川市のホームページに市議会のコンテンツがございます。その中の録画配信は、本紙のQRコードからご確認いただけます。市の為には皆様のご意見等も多くお聴きしたいので見かけましたら声をかけていただければと思います。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

竹原正人 議員



議長の仕事

5月中旬からは、常任委員会の行政視察をはじめ、全国市議会議長会の総会への参加、県選出国会議員との懇談会や各種団体の総会に参加しました。また、5月24日には東京滑川会の総会並びに懇親会に参加し、多くの本市出身の皆さんと親睦を深めて参りました。6月2日から6月定例会が開会し、翌3日は東京富山県人会へ参加し、4日は午前中、議会質問の通告の受付をしました。今回の代表質問は、未だ代表質問をしていない会派に所属する谷崎議員にお願いいたしました。一括質問に慣れていないのか、質問終了後には、「一問一答の一般質問の方が質問しやすい」と漏らしていました。何事も経験が大事なので、次回の9月定例会でも質問議員を指名したいと思います。7月5日は関西滑川会の総会並びに懇親会に参加して参りました。お世話頂いた関係者の皆様に感謝を致します。東京滑川会、関西滑川会共に、会員の高齢化と新しく入ってくれる人が少ないという事が共通の悩みであると伺いました。様々なPRで会員の増加に期待したいと思います。7月は各種団体の総会や、国や県へ滑川市の要望活動をする時期でもあります。少しでも要望が具現化できるよう努力して参ります。



第58回関西滑川会総会
千先会長の開会挨拶

青山幸生 議員



議会で質問した内容

6月定例会では、以下の3点について質問しました。① 消防団員の確保。消防団の力向上モデル事業が採択され、消防団を募集するための車両ラッピングが実施されます。これにより、幅広い年代の方々へPRし、消防団員の確保に努めていくとの答弁がありました。災害や火災時における消防団員の確保は非常に重要です。② 体育館の空調設備設置。滑川中学校と早月中学校の体育館空調設備設置調査（320万円）について、予算可決後の進捗を伺いました。現在実施中の基本調査業務の結果に基づき事業内容を検討し、整備する場合は直ちに交付金手続きを進めていくとの答弁でした。学校体育館へのエアコン設置は、子どもたちが快適に活動できるだけでなく、災害時の避難場所としても活用できます。引き続き早期の整備を要望します。③ 健康寿命の延伸。特定健康診査およびがん検診の受診率向上について質問しました。特定健診および後期高齢者健診の送付封筒に記載するメッセージの改善に取り組んでおり、令和7年度には市内の商業施設などにもポスターを掲示することです。健康診査の受診率向上は、市民の皆様が今後も元気に生活するために不可欠です。今後も受診率向上に向けて知恵を絞ってまいります。



谷崎潤一 議員



代表質問

6月定例会ではコンピュータ管理運営費・DX推進事業費・システム改修等に係る予算、児童福祉事務費、官民連携・実証促進事業費について質問いたしました。

3月定例会代表質問に引き続きDXに関する質問になりました。令和7年度当初予算にてコンピュータ管理運営費3億1,983万円計上され、6月の定例会では、補正予算約1億218万円が計上されました。令和3年9月に施行された地方公共団体情報システム標準化に関する法律に基づいて国が進める20の基幹業務の標準準拠システムへの移行に伴う費用がコスト高の原因になっており、本定例会の補正予算は、20の基幹業務以外の標準化対象外のシステム改修費を予算計上したとのことでした。また、令和3年度から令和7年度までの情報管理費におけるデジタル関連の予算の合計は約11億円程度になっており、そのうち一般財源は7億円程度であるとの答弁でした。今回上程されている補正予算も含め逆にコスト高になったと思われるが、市の見解を伺ったところ、継続的な情報システムの増大は、財政規模の小さな自治体にとっては非常に大きな課題であり、県や他市町村と連携し、システムの運用経費やガバメントクラウド利用料に対する確実な財政支援を国に要望しているとのことなので今後も注視していきたいと考えています。

次に、補正予算500万円計上された、国モデル事業「こどもの居場所づくり支援モデル事業」の事業内容について、従来のこども居場所づくりと「こどもの居場所づくり支援モデル事業」の違いを伺いました。答弁では、従来のこどもの居場所づくりは、新たな子ども食堂の開設や既にこどもの居場所開設している団体が新たに実施する特色ある取組に対して、県の補助を活用して助成を行うもので、今回国が公募している補助金は、令和6年能登半島地震により被災した自治体に取り組むもので、こどもの心の負担軽減を目的とした居場所づくりがテーマであるとのことでした。

こどもの居場所づくりは、現在必要な事業であり、生き辛さを感じている児童生徒や保護者に必要な場所になっています。滑川市でも十分な予算付けできるよう引き続き提案していきたいと考えています。

最後に、旧町部エリアの回遊性向上を目的としたARコンテンツ・「NAMERIKAWA ARTIST IN RESIDENCE」について質問しました。登録文化財の歴史的建造物や街並み、写真と対比させるコンテンツであり、瀬羽町周辺に訪れた方々がエリアの歴史、文化等を知り楽しむものであり、新たな来訪者の呼び込みや回遊性の向上、滞在時間の向上、飲食店、雑貨店の消費拡大に期待ができ、新たな店舗誘致など、より一層のにぎわいの創出につなげたいとのことでした。私からも、瀬羽町や晒屋を含む旧町部エリアの活性化や新たな観光の創生など、季節や天候に左右されない観光資源の一つとして、今後も継続的に新たな提案をできるように情報収集に取り組んでいきたいと考えています。

安達真隆 議員



議会で質問した内容

6月定例会では大きく3点において質問しました。①市内公共施設の維持管理について市民交流プラザあいらぶ湯の給湯設備は、開設から18年が経過し、経年劣化による更新工事が決定しました。工事中は駐車場の一部が使用されますが、隣接商業施設や利用者に配慮しながら進められます。市民への不便を最小限にするため、早期完了を働きかけていきます。②教育保育環境について、同朋認定こども園に、国の交付金を活用した補助金が予算計上されました。国と市で事業費の半分を補助します。子どもたちの安全のため早期改修が必要ですが、今回の予算計上は説明不足や甘さが目立ち、本会議場が一時騒然としました。今後は、当局に対し、十分な説明と経緯の明確化を求め、迅速な予算執行と改修を進めるよう進言していきます。③観光振興について今年度のほたるいか海上観光の出航率が5割を切り、2隻体制への復活を検討できないか質問しました。当局からは、以前借りていた観光船「若潮」の船員確保が難しく、氷見沖クルージングも休業中であるとの説明がありました。長年提案しているにもかかわらず進展がないため、今後は滑川市保有の観光船「キラリン」の活用なども含め、観光客増加のための具体的な提案を続けていきます。

吉森真人 議員



議会で質問した内容

6月定例会では、大きく3点について質問を行いました。①「企業版ふるさと納税（地方創生応援税制）について」これまでの寄附額、活用実績、今後のPRについて質問しました。市からは、令和4年度から3年間で合計1,580万円の寄附があり、小児外来拡充やふるさと米作り体験など、主に子どもたちの事業に活用されたと答弁。県内他市町村には数億円規模の寄附例もあり、今後は企業への積極的な働きかけや中間支援事業者との連携強化で増加を目指すとのことでした。本制度が滑川市の地域活性化と子どもたちの未来に貢献することを期待します。②「なめりかわ未来学校について」3年目の開催となり、改めて創設目的や市の考えを伺いました。市は、社会課題発見、世代を超えた対話を通じ、自ら結論を導く経験を提供することが目的と答弁。デンマーク流教育手法は、主権者教育やふるさと教育など、未来を生きる子どもに必要な資質・能力育成と重なりと説明しました。来年度以降も、充実・発展させ開催するとのことでした。③「埼玉県比企郡滑川町との交流について」。これまで交流がほとんどなかったため、5月の議員視察を機に、今後の交流推進を提案しました。市長から「相手方の意向確認は必要だが、自ら訪問も検討し、双方合意のもと前向きに交流・連携を進めたい」との答弁を得ました。同じ「滑川」である両自治体間で、新たな交流が生まれることを期待しています。